

人口減少社会強靱化分科会 中間報告

令和6年10月9日

1 県内調査の概要

(1) 調査日 令和6年9月5日(木)、10日(火)、11日(水)

(2) 調査先

鳥取市国府町、岩美町、若桜町、倉吉市、三朝町、琴浦町、日南町内の限界集落、消滅集落、そのような集落を含む地域(5集落、5地域)

(3) 調査内容

自治会長、地域協議会会長、住民、集落支援員、市町村担当職員等の関係者から、人口・世帯構成、生活環境、生活面での困りごと、行政に対する要望を聞き取りした。

2 聞き取り内容の整理(課題整理)

(1) 直近の課題、要望

- ①鳥獣被害が増加し、田畑や生活道周辺が荒れている。
- ②公共交通機関等が不便で、子どもの通学時間が長いことから、課外活動等に制約が生じている。
- ③生活道について、街灯がなく夜道が暗い、倒木の不安(通行止め、停電)、除雪が不十分である。
- ④高齢者の年齢層が上がり(後期高齢者や超高齢者の増加)、外出や近所付き合いが減っている(高齢者の孤独・孤立)。
- ⑤高齢化によって地域活動の担い手が減り、活動全体が縮小している。また活動によっては場所の確保に課題がある。
- ⑥携帯電話のキャリアによっては、通信環境が悪い。
- ⑦農林業の担い手が減り、耕作放棄地が増え、山も荒れている。
- ⑧空き家が増えている。

(2) 将来に対する不安

- ①共助交通の運転手が高齢化しつつあり、将来的に担い手の確保が心配。
- ②区長など自治会役員が務まる担い手がいなくなりつつある。
- ③農業の担い手が一部の人に集中しているが、そういう人も高齢化しつつあり、今後さらに耕作放棄地が増えることを懸念。
- ④簡易水道、公民館等の集落の施設の維持管理が続けられるか不安。
- ⑤墓の管理をどうするか不安。
- ⑥村じまい、その後の集落財産の管理が心配

(3) どの地域でも概ね対応できている課題

- ①共助交通、乗合タクシー等により、移動手段は概ね確保できている。
- ②買物は、店舗への移動手段の確保に併せて、移動販売がある。

(4) 一部地域で、市町村等が先行的に対応している課題

- ①防犯カメラの設置に対して、自治体が支援している。
- ②自治体が道路沿いの立木を伐採し、未然に倒木を防止している。
- ③自治体が光回線を整備している。
- ④自治体が高校生向けに公設塾を開設している。
- ⑤まちづくり協議会等に自治体職員、集落支援員等を配置し、地域活動の運営を支援している。魅力的な地域活動を行い、住民の生活の楽しみを生み出している。
- ⑥まちづくり協議会が高齢者の安否確認や、墓守サービスを行っている。
- ⑦農業の担い手をいち早く組織化（法人化）し、担い手の体制強化を図っている。